

ふなお音楽祭

11月11日（土）は、週の初めから雨の予報。困ったことになったなあと天気予報を見るたびに思っていた。ふなお音楽祭を予定していて、雨の中を来観者一人一人に傘袋を渡さなければならず、受付が混乱することが予想されたからだ。金曜日の朝にはもしかしてふらないかもという具合に変わり、夕方にはたぶん降らないだろうと予報になった。

当日は、さわやかに晴れて雨の心配はなくなった。柳井原小の畑中校長に、「お互い日ごろの行いがいいから、肝心の時は晴れるね。」と言うと、「世間の我々の評価はそうではないから、自分たちで言わなければ誰も言ってくれませんよね。」と言う。うまいことを言うもんだと思ったが、どちらにしても晴れてくれたのはありがたい。ただ、風が強くずいぶんと冷え込んだので、開場の9時20分まで館外で待ってもらうのが申し訳なく、開場時間を早めようかと思った。しかし、9時20分に合わせて来てくださる方のことを考えると、いたずらに時間を早めるのも問題だと思って留まった。

100名近くの人が公民館の玄関に並び開場を待っている。「寒い中いつまで待たせるのか。」という苦情が何人からは出そうなものだが、船穂町の人は何も言わず静かに待っている。「お待たせしました。開場です。」と入館を促すと、列を崩すことなくゆっくりとホールへと歩を進める。我先に入ろうとか、自分の席を何としても確保しようとかいう様子はまったくない。運動会や学芸会でも感じる船穂町の人の上質な振る舞いが心地よかった。

幼稚園児のかわいらしい歌、ふなおフレンズハーモニーつくしんぼの工夫された合唱と合奏、柳井原小学校の全校合唱・合奏とプログラムは進んだ。先週までなかなかそろわず佐々木先生や担任の先生がやきもきしていた船穂小学校も、倉敷市学校音楽祭と同様によくできたと思った。民舞虹いろの会の傘おどりと銭太鼓は、かなり時間をかけて練習しなければできないだろうなと感心させられるものだった。船穂中学校の吹奏楽部は、14名という少数精鋭だが、各人がふなお音楽祭にかける思いが伝わってきて感動した。

実行委員長さんをはじめ、実行委員の方、ボランティアの方の協力で無事にふなお音楽祭を終えることができた。反省会の場で、「皆さんのおかげで、地域の皆さんに喜んでいただけました。わたしは来年はいませんが、ふなお音楽祭が来年も再来年も長く続くことを願っています。」とお礼を言わせていただいた。言い終わると無性にさびしさがこみ上げてきた。物事には始まりと終わりがある。自分が教員として終わりの時を迎えようとしていることを強く意識した。

金曜日のリハーサルから公民館につめて、照明や拡声、緞帳の昇降の練習をしてくださったつくしんぼの方や親師会の方がいるのだからきっと来年もうまくいくと、さびしさに肩を落としがちな自分を励ました。